



e-La Voz
「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
日本語放送
メールマガジン
(第17号)

2004年4月1日発行

シカゴ便り – 天から降った車

事の起りは、アンデスを代表する名曲「コンドルは飛んでいく」でした。

1991年の夏、私たちはホルヘ＆道夫のコンビで「アンデスのセレナーデ」コンサートを企画し、東京有明コロシアムでの一万人賛美集会ジェリコ・ジャパンを皮切りに日本各地を巡回しました。1993年春には、ハワイ・北米各地でも演奏会をひらき、チャランゴ奏者のエカドル人宣教師ホルヘさんと私たちの長男道夫のギター伴奏によるアンデスの調べは、人々の耳に新鮮な響きをあたえたのです。なかでも「コンドルは飛んでいく」は日本の音楽教科書でも取り上げられてよく親しまれているので、ホルヘさんもいちだんと熱を入れて演奏。チャランゴの弦を指先で小刻みにふるわせると、翼をひろげたコンドルがアンデスの碧空にゆうゆうと舞い上がるイメージがひろがり、いちど聞いたら誰も忘れられない曲となっていました。

11年後、ここシカゴは「春とは名のみ」の早春。それでも凍れる寒さもやわらいで土の中で根をひろげ育っていた球根が青い芽を地面にいきおいよく伸ばし、いつの間にか、家のまわりに植えたクロッカス、水仙、ヒヤシンスなども蕾をひらいて花をみせはじめました。デジカメを持ちだしてパチリパチリやっていると電話の鈴。電話の主はシカゴ市内のデボン日本人教会の佐藤敬牧師で、この夏日本に帰郷するので、その間、日曜日の礼拝説をたのみたいという要請でした。また佐藤牧師が顧問をしている「VIP」というシカゴ在住の日本人クリスチャン実業家の集まりでもぜひ話してほしいということでした。2週間後、VIPシカゴ会長の関口公孝氏が車で迎えにこられ、集会場になっているBigston社へ向かいました。現在、関口さんはこの会社の社長をしておられます。成功するまでの苦労話や信仰をもたれたいきさつなどをドライブしながら話してもらいました。助手席におられた村上さんはニューヨークから着かれたばかりで、南米ベネズエラにソニーの現地工場をつくれたり、ブラジル、ペルーなどでも活躍されたことから私とは共通のラテンの話題で話がはずみました。その夜集まった人たちのなかにはシカゴの教会でひらいた「アンデスのセレナーデ」コンサートをよくおぼえている人たちが数名おられ、とくに「コンドルは飛んでいく」には異口同音に感動したということでした。三菱のシニア技術者の伊藤さんが、「NHK海外放送をきこうと思ってダイヤルをまわしていたら、強いシグナルでクリヤーに『アンデスの声』が飛び込んでビックリしました」といえば、隣では「私は1961年生まれ。日本のBCLブームのときには『アンデスの声』にダイヤルをあわせたひとりです」といわれ、やっぱり短波はすごいなと改めて実感させられました。終わりに佐藤牧師が尾崎夫妻はまだ車をもっていないので心当たりがあったら連絡くださいとアナウンスがあつて散会しました。

数日後、裏庭の小鳥の餌箱をリスが荒らすので、木の枝からもっと離そうとしていたところ、「パパ、電話！」と孫のクリスティーンの声。ちなみに私は孫たちにはパパとよばれています。父親はDaddyですから問題はありません。「お待たせしました。尾崎ですが。」「はじめまして。私は関口VIP会長が出席している教会の牧師で小針を申します。早速ですが車をご入用だとときましたが、ちょうど手元に一台あるので…」、ゆっくり考えるひまもあればこそ、その日の夕方には小針牧師が運転するホワイト・カラーの乗用車が我家のカレージ前に姿をあらわしました。車種はGeneral Motor社のSaturn1994年型。白く輝くスマートな車体をみた私は、「天から降ったか、地から湧いたか。いきなり車が手にはいるなんて」とビックリしていると、「いや、実はこの車は教会に来ておられた大学教授がロンドンに急に移ることになり、ご自分が使っておられた車を処分してくださいと教会に置いていかれたのです。私にはあてがなく、そろそろ救世軍にでも引きとってもらおうかなと考えていたところだったのです。」と小針牧師はこう説明され、「よかった。よかった。」とホッとした表情で車に関する書類と鍵を渡して帰っていました。



夕暮れ空をジェット機が白い筋をえがきながら真っ直ぐにのぼっていきます。天空をあおいで佇むと、天地万物を創造され、すべてのすべてを見通しておられる方への深い畏れを覚えます。またそれは私のような小さな、罪深いもののために必要なものを備えてくださったことへの深い感謝でもあります。私にできることは、愛されている者にふさわしく自分の生涯を生きていくために役立たせることです。エクアドルの運転免許証は通用しないので、イリノイ州発行の免許証を取得するために筆記試験と路上テストを受ける必要があります。合格のあかつには、私も堂々とハンドルさばきも軽やかにハイ・ウェイを走れることになりますが、アメリカでは若葉マークはありません。ぜひお祈りください。

あなたは知らないのか。聞いていないのか。主は永遠の神、地の果てまで創造された方。
疲れることなく、たゆむことなく、その英知は測り知れない。疲れたものには力を与え、精力のない者には活気をつける。若者もつまずき倒れる。しかし、主を待ち望むものは新しく力を得、鶯のように翼をかけて上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れない。

<旧約聖書イザヤ書 40章28-31節>

HCJB日本語放送担当

在主 戻崎一夫 久子

☆☆☆ 特 報 ☆☆☆

「アンデスの声」日本語放送40周年記念番組がHCJBから放送されます。

日 時： 2004年5月1日(土曜日)
11:30 ~ 12:00 (UTC)
20:30 ~ 21:00 (日本時間)

使用周波数： 15 MHz帯(未定)
決定し次第、メルマガとホームページにてご案内します。

使用送信機： T-3 (250KW) パノラマ・アンテナと連動

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://www.hcjb.org/japanese/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://www.hcjb.org/japanese/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mnz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。

このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録は、下の該当ボタンを選択し、必要事項をご記入の上、[この内容で送信する] ボタンをクリックして、手続きをお願いします。なお、Netscape 6.2以降をお使いの場合、このメールマガジンに埋め込まれているご登録手続きの機能はご利用いただけません。ご面倒ですが、[HCJB日本語放送](#)まで別途メールにてお知らせください。

○ 配信の停止（※重要：必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。）

○ 配信変更先のメールアドレス

（※重要：必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。）

新規登録するメールアドレス

※お送りいただいた内容はメールリスト・サーバにより自動的に処理しますので、余分な内容は一切入れないでください。
※このメールマガジンはコンテンツが大きいため、携帯電話への配信はできません。

Copyright © 2004 by HCJB. All rights reserved.



日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki
1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U.S.A.
